

## 日本におけるチャネルキャットフィッシュの確認状況：

### 市町村別侵入状況把握アンケートに基づく整理

吉田誠（東京大学大気海洋研究所）

[連絡先：makoto.a.yoshida[at]gmail.com]

チャネルキャットフィッシュ *Ictalurus punctatus* は北米大陸を原産とする淡水ナマズ類で、1980年代に利根川水系で自然水域に逸出・定着し、2000年代以降は東北～近畿地方の複数の水系で生息が確認されている。本種は2005年に特定外来生物、2015年には緊急対策外来種に指定され、自然水域における防除が喫緊の課題だが、2024年6月には北海道でも生息が確認されるなど、人為によるとみられる分布拡大も続いている。

このような状況の中、2023年度から環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室により「特定外来生物の市町村別侵入状況の把握のためのアンケート」調査が開始され、本種を含む特定外来生物の最新の侵入状況を把握し情報を蓄積・提供するために、年1回程度、全国都道府県及び市区町村へのアンケート調査、環境省地方環境事務所からの状況聴取及び文献調査等を通じて、市区町村単位で特定外来生物の確認情報が取りまとめられている。

本研究では、現在公表済みの2年分のアンケート調査結果（令和5年度および6年度分）に基づいて、本種の“侵入状況”（市区町村ないし都道府県レベルで把握され、回答されたもの）の現状を整理した。さらに、その整理結果を複数の既往知見と照合することで、当該アンケートで初めて捕捉された（既往知見にない）本種の確認事例を抽出

し、個々の事例について本種の確認時期と場所および情報源について精査した。

当該アンケートの対象となった全 1741 自治体（市区町村）につき、有効回答数は令和 5 年度が 1369 件（78.6%）、令和 6 年度が 1642 件（94.3%）であり、チャネルキャットフィッシュの確認された自治体数はそれぞれ 46（2.6%）および 68（3.9%）だった。このうち、全国レベルで本種の分布を整理した既往知見に含まれない新規の確認事例として、新潟県新潟市の信濃川（1987 年）、神奈川県横浜市の岸根公園および鹿児島県鹿児島市の甲突川（1994 年）、熊本県小国町の杖立川（2000 年頃）、三重県明和町の祓川（2019-2020 年頃）、長野県中川村の天竜川（2022 年）における 6 件が見出された。前 4 者は、本種が特定外来生物に指定された外来生物法の施行年（2005 年）以前の記録であり、かつ現在まで追加の採捕事例も確認されていない。一方、後 2 者は直近 5 年以内とごく最近の採捕事例で、潜在的な分布域の拡大も懸念されることから、当該水域や近隣の水系における本種の生息状況について早急な調査が必要だと考えられる。